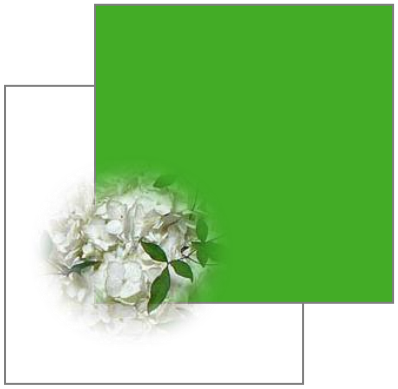
かさねの色目の花あそび　No.5

【色目】苦丹色　<表：青　裏：白>



辞書では「苦丹（くたに）」は、「草の名。りんどう、あるいは、ぼたんのことかといわれるが、未詳」とある。白いリンドウやボタンの花と葉の組み合わせなのだろうか。でも「苦（くるしい、にがい）」という字も、赤色顔料の意味でもある「丹（たん）」という字もピンと来ない、グリーン＆ホワイトの爽やかなコーディネーションだ。

花あそびでは、表の「青」に南天の葉（少し濃い青になるが）、裏の「白」に大ぶりのアジサイを使用。花器は透明ガラス。色の組み合わせからも、水しぶきのような花（アジサイの小花）・葉の形状からも、クールで心地よい涼風を感じるようだ。

かさねの色目の花あそび　No.6

【色目】木賊　<表：萌黄　裏：白>
【色目】白菊　<表：白　裏：萌黄>

「木賊（とくさ）」は、草の名。その緑の茎と、節にある白い袴のイメージなのだろう。「白菊（しらぎく）」は、もちろん白い菊の花と葉。

「萌黄（もえぎ）」は、冴えた黄味の緑。字のごとく、春に萌え出る草の芽、若葉の色。確かに若葉の緑の中には黄味がある。「萌木」の表記もあり、新緑の若木の色。

萌黄は若さを象徴する色であり、平安時代では若者向けの色として愛好されたそうだ。『萌葱（もえぎ）』と書くと、 あおねぎに由来する濃い緑色を指す。

花あそびでは、上の「苦丹色」とほぼ同様。「萌黄」はベランダのゼラニウムで、「萌黄」「萌葱」の濃淡を使用。写真上の細葉は同じくベランダのオリズルランで、この葉自体がこの色目の２色だ。